

## 「学習の3段階理論」

— 予習は、分からないところをはっきりさせて授業に臨むためにするもの —

開倫塾

塾長 林 明夫

Q : 授業以外でも、つまり自分一人で勉強しても「うん、なるほど」と「理解」することができますね。

A : (林明夫 : 以下省略) よいことに気付きましたね。そうです。「うん、なるほど」とものごとを「理解」することができるのは学校や開倫塾などで先生から教わる「授業」だけではないのです。授業以外でも、自分一人で勉強しても「理解」することはいくらでもできるのです。

Q : 自分一人の力で勉強して、ものごとを「うん、なるほど」と「理解」するにはどうしたらよいのですか。

A : まず第1に、何を使って勉強するか、主な勉強の対象を決めること。1番よいのは学校や開倫塾などで使用している「教科書」といわれる本です。たくさんありどの教科書を使ってよいか分からない場合は、先生やそのことをよく勉強している人、図書館司書(図書館の先生)に遠慮することなく事情を話して相談してみてください。

主な勉強する対象の選択を誤ると、いつまでたっても勉強が進まないという致命的(命取り)なことにもなりますのでよく注意して下さい。

次に、その本を腰を落ち着けてゆっくりといねいに読むこと。読み進めながら「うん、なるほど」と「理解」できれば、それでOKです。

Q : 一人で読んでいてよく分からない、つまり「理解」ができないときはどうするのですか。

A : 何が原因でよく分からないのか、その原因を推測(すいそく)することです。

日本語や英語などの語句の意味が分からないときは、国語辞典や英和辞典などの辞書を手元におき、それを引いて調べてみる。その文章の前後関係つまり文脈から読み取れる最も適切な語句の意味を辞書の中から選び出し、メモしておくことです。

では、「語句」の意味は分かっても、そこに書いてあることがさっぱり分からないときはどうしたらよいか。

数学は、1つ1つの公式や項目についての基本的な考え方が、それ以前の学習内容が正確に身に付いていることを前提にしていることが多いので、今までの勉強をやり直して分からないところ・不確かなところをなくすことが大切です。

英語は、教科書の文章をすべて少し大きな声を出して何回か読んでみる。何回も少し大きな声を出してよく読んでみて、スラスラ読め、大体の意味がつかめたらOKです。スラスラ読めなかった

り意味がよく分からなかったりしたときは、辞書を引き発音記号を確かめて写す(メモする)と同時に、語句の意味もメモしておく。語句の意味は分かっても構文や文法的なことが分からないために全体の意味が分からない場合は、参考書や文法の本を開き、勉強することです。

社会や国語、理科も同様で、まずは教科書をゆっくり少し大きな声を出して読み、1つ1つの文章の意味を考える。その中によく分からないところがあれば、辞書を引参考書を開いて確かめ、それがどのようなことか、「うん、なるほど」と「理解」できるまでよく考えることです。

自分一人で勉強するときには、このようになさったらよいと思います。

**Q：一人で勉強していて、分からないところがでてきた場合はどうするのですか。**

A：よい質問ですね。一人で勉強して「よくわからないところ」は、よく分かるようになるまで調べることです。

**Q：どのようにして調べるのですか。**

A：そのためにあるのが「図書館」です。学校図書館、市立(町立)図書館、県立図書館は、分からないことを調べるためにあるのですからどんどん利用して下さい。最近は大学の図書館も、地域に住み働く社会人だけでなく、小・中・高校の児童生徒も利用できる場合が多いですから、そこも遠慮なく活用して下さい。

インターネットのホームページもよく分からないことを調べるのには便利です。「検索」の方法を早くマスターして、インターネットで調べることも役に立ちます。

**Q：調べても分からないときは、どうしたらよいのですか。**

A：お友達やご家族など身近な人に質問したり、議論をしたりすることも役に立ちます。

**Q：それでも、「うん、なるほど」と十分に理解できなかつたらどうしたらよいのですか。**

A：学校や開倫塾の授業を真剣にお聴きになることです、ここまで私が説明させて頂いた一人で勉強をして理解する方法は、よくお読みになって下さった方はお気づきになられたと思いますが、実は「予習の方法」です。

結論から申せば、「予習は何のためにするのか」といえば「教科書などの分からないところを予めはっきりさせてから授業に臨むためである」といえます。

教科書の内容をとことん調べ尽くして、自分の力で「うん、なるほど」とよく「理解」できるところをできるだけ増やしておき、よく理解できないところをはっきりさせてから学校や開倫塾の授業に臨むことです。

**Q：このような方法で予習をしている人がいるのですか。**

A：私は開倫塾創業以来、「予習は分からないところをはっきりさせて授業に臨むためにやるものだ」ということを言い続け、この方法を伝え続けてきました。18年間毎週1回放送している CRT 栃木放送のラジオ番組「開倫塾の時間」でも何回も説明させて頂き、私のホームページでも紹介させて頂いておりますので、ご存知の方はおやりになっていると思います。

切角ですのでもう少しつけ加えますと、この「分からないことをはっきりさせて授業に臨む」ために予習をしている間に、自分の力だけでよく分かった、つまりよく「理解」できた内容は、遠慮せずに「学習の3段階理論」の①「理解」の次のステップである②「定着」や③「応用」にまでどんどん進めてみることをお勧めします。

「学習の3段階理論」の②「定着」と③「応用」とはどのようなものであり、またそれを確実に行うにはどのようにしたらよいのかについては、この「シリーズ」でこの後どんどん説明させていただきますので、お楽しみになさってください。

—追記—

**Q：**今お話を伺った、自分の力で教科書などの内容を「理解」という勉強方法は、大学や社会に出てからも役に立つのですか。

**A：**この学習方法は、東京大学法学部で民法をお教えになっておられた星野英一先生の「民法概論Ⅰ」という民法の教科書のはじめのところで、東京大学法学部の学生にとっての理想の勉強の仕方・あるべき姿として紹介された方法をもとにして、私が少しアレンジして小・中・高校生用に書き直したものです。日本で1番難関といわれる東京大学法学部で学ぶ学生の理想の勉強の仕方ですから、この方法を身に付ければ、どんなに難しい大学に入ってもよい「予習」ができると考えます。

また、社会に出てからも、このくらいの綿密な方法で自分自身の勉強方法を作り上げれば、新しいものごとを自ら学ぶときに大いに役立つと考えます。どんなに難しい仕事にお就きになったときにも、ある程度までの勉強は自分一人できると考えます。

「ドラゴン桜」ではありませんが、東京大学法学部に入りたければ、あるいは医師や弁護士、公認会計士、外交官など難しいと言われる仕事にお就きになりたければ、このシリーズで示すような勉強の方法をお試しになり、自分なりの勉強方法を一日も早く身に付けることです。そうすれば、そこに入学したりその仕事に就いたりできる可能性が著しく高まると言えます。

— 1月5日記 —